

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	地理学概論A (Introduction of Geography A)		
ナンバリングコード	K10703	大分類 / 難易度 科目分野	教職科目 / 基礎レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 前期
必修・選択区分	教職関係科目(選択必修): 中学校教諭一種免許状(社会)		
授業コード	K004501	クラス名	-
担当教員名	土居 晴洋		
履修上の注意、履修条件	指定した範囲の教科書を授業前に読み、理解できることと、理解できないことを明確にしてください。その際に、地図や写真、図表等から何が読み取れるかをよく考えて下さい。授業においては、理解できなかったことを積極的に質問して下さい。授業内容を踏まえて、授業後に復習して下さい。		
教科書	『新詳地理資料COMPLETE2020』帝国書院		
参考文献及び指定図書	適宜紹介する。		
関連科目	地理学概論B, 地誌学		

○授業の目的・概要等							
授業の目的	<p>自然現象や人文社会現象を時間と空間の枠組みの中で理解することが地理学の目的であることを確認し、複雑に変化を遂げる現代社会を地理学的視点から解釈するための理論や方法論を提示します。高校までの学校教育の「地理」の影響で、暗記科目ととらえられがちな「地理」のイメージを払拭し、現代社会を理解するうえで、地理学の見方・考え方が非常に有効であることを理解し、地理学の見方・考え方の基礎を身につけ、身近な地域を自ら観察し、読み解くことができるようになることを目指します。□</p> <p>地理学の基礎の理解については、『地理学概論A』と重複しますが、それ以外は異なる内容としており、併せて受講することで、地理学を全体的に、かつ体系的に理解できるようにします。このことは、本学のディプロマ・ポリシーに謳う「自然や文化・伝統など幅広い視野」を持ち、「時代の変化を捉え、力を養うこと」に繋がります。</p>						
授業の概要	<p>地理学の概念や構成、見方・考え方を地図の読図技法など、地理学を学ぶうえで不可欠な項目を最初に学びます。本授業では幅広い地理学の領域の中から、自然環境との関わりが強い内容に絞って学習を進めます。最初に気候や地形の形成メカニズムや地域的分布の特徴などの自然条件に関する基礎的知識を理解します。そのうえで、自然環境との関連性が非常に強い第一次産業を中心に学びますが、環境決定論的に第一次産業を捉えるのではなく、歴史や文化、政策など、人間の諸側面との関連のもとに第一次産業を捉えることに重点を置きます。</p> <p>なお、教科書は地理学の構成としての系等地理学(人文地理学・自然地理学)と地誌学の内容を網羅的に解説するものです。毎時の授業テーマに沿って、該当する教科書のページを指定します。まとまった範囲のページではなく、分散的に指定することもあります。□</p>						
授業の運営方法	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「講義形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「該当しない」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>双方向授業</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「講義形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	(3) アクティブ・ラーニング	双方向授業
(1) 授業の形式	「講義形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」						
(3) アクティブ・ラーニング	双方向授業						
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目						
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。						

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確認等)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	日常的な事象を認識し、地理学的な関心を持つことができる。		5点	5点
【知識・理解】	地理学の概念や地理学の基本的な見方・考え方を習得している。	30点	5点	5点
【技能・表現・コミュニケーション】	基本的な主題図や統計資料の読解と考察を行うことができる。	20点	5点	5点
【思考・判断・創造】	地理学の見方・考え方をを用いて日常的な事象を考察することができる。	10点	5点	5点
○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)				
<p>双方向授業を行うために、あらかじめページを指定した教科書の予習が行われていることを前提にします。したがって、授業において教員側から受講学生に対する質問への回答や、逆に学生側から教員側への疑問や質問が出されるか否かも評価の対象とします。</p>				

○その他

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科 目 名：地理学概論A (Introduction of Geography A) 担当教員：土居 晴洋	授業コード：K004501
学修内容		
1. 地理学とは何か		
<p>地理学とはどのような学問なのかを理解することを目的とする。「地理」は中学や高校において地理(地理的分野)として学んでおり、その時に地名や産物、地形用語などを暗記する科目というイメージがあったかもしれない。しかし、大学で講ずる「地理学」をそのイメージの延長で捉えることはできない。現代の地理学は、人文社会科学や自然科学などの隣接諸科学と同列のサイエンスの一領域である。しかし、地理学の基本的な枠組み、ものの見方や考え方があることを、具体的な事例を通して理解する。</p> <p>予習: 高校までで学んだ「地理」の楽しかったところ、苦手だったところを振り返る。(約2.0h)</p> <p>復習: 高校までの「地理」と大学で学ぶ「地理学」は何が同じで何が違うのかを整理する。(約2.0h)</p>		
2. 地理学の構成		
<p>地理学の研究対象は、日々の暮らしから地域や社会にある産業や文化といった人や社会に関わる事象に加えて、気温や降水などに組合せとしての気候や扇状地や段丘といった地形の特徴などの自然現象や自然災害など、極めて多岐にわたる。また、大分県や中国などの県や国家などの地域が持つ特徴に注目する地誌学も地理学を構成する重要な領域である。地理学が持つこのような対象の多様性を知るとともに、地理学として一つの学問領域を形成している必然性や論理を理解する。</p> <p>予習: 地理学の見方・考え方によって、自分の身近な地域の特徴を考える。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義を踏まえて、人文社会現象・自然現象から一つ選び、その時間的・空間的特徴について考える。(約2.0h)</p>		
3. 地球上の位置・地図の種類		
<p>地理学において考察対象とする様々な事象について学ぶ前に、それらの事象が生起する「地球」をどのように捉えるのか、また地理学ではこれをどう表現するのかを学ぶ。「地球」は球体であり、自転と公転を続けていることが、様々な事をどのように生み出しているのか、また今現在、我々が暮らしている大分が、その地球の中でどのような位置にあるかを理解する。さらに球体を平面に展開するために工夫を凝らしてきた地図の図法の特徴について理解する。</p> <p>予習: 教科書8-11ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。(約2.0h)</p>		
4. 地形図の読み取り		
<p>地図の概念を理解したうえで、その一つである地形図の読み取り方法を学ぶ。高校までで地理を学ぶ際に、地形図の読み取りが苦手とする生徒は少なくない。その多くは、二次元平面に表現された情報を頭の中で立体的に再構成することに困難を感じることに由来する。本学周辺の地形図を題材にして、等高線と実際に土地の凹凸などの対応関係を確認し、地形的情報を読み取るコツを習得する。また、豊富な地図記号が地域の持つ様々な情報を与えてくれることを知る。</p> <p>予習: 教科書36-39ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。(約2.0h)</p>		
5. 地球の動き		
<p>地球の表層で起こっている現象について理解するためには、気候や地形などの自然環境を学ぶ基礎的知識が必要である。ここではプレートテクトニクス理論を理解するために、地球深部の構造や地質年代を概説したのちに、同理論による大陸の移動やその結果生じた大地形について学ぶ。また、地震による自然災害を理解する基礎として、活断層の形態とメカニズム、また活断層の動きによって生じる特徴的な地形を理解し、日本においてはこれらの地形が身近にごく普通に存在していることを知る。</p> <p>予習: 教科書12-23ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。(約2.0h)</p>		
6. 様々な地形		
<p>本学が立地する大在地区や隣接する鶴崎地区は大野川河口部に形成された扇状地に立地する。また温泉観光地と有名な典型的な扇状地である。私たちの身の回りには、教科書に掲載されても不思議ではない地形が多数存在する。段丘や乾燥地の地形などを含めて、代表的な地形について、その形態と形成メカニズムを理解する。また、身近にあるこれらの地形は単に教科書にある存在ではなく、我々はその地形的な特徴を理解し、歴史的に利用・活用しながら暮らしを成り立たせていた。</p> <p>予習: 教科書24-33ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。(約2.0h)</p>		
7. 気候のメカニズム		
<p>私たちは1年が四季で構成されており、それぞれの気温や降水量の組合せとしてある春夏秋冬が順序よく繰り返すことに何の疑問も持っていない。しかし、そこにはそのような気候が生み出されるメカニズムがあり、我々の生活は自らが暮らす地域の気候に順応して営まれている。このような気候のメカニズムについて、地球規模のスケールでは大気循環として、また身近な地域の気象については、大気の動きと地域的な地形的条件との関わりとして理解する。</p> <p>予習: 教科書40-45ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。(約2.0h)</p>		
8. 世界の気候区分		
<p>地域区分は地理学の重要な研究手法の一つである。つまり、何らかの指標で類似している、あるいは逆に似通っていない、といった基準を設定し、特質の似通った地域を設定する手法である。ここでは前時で学んだ気候のメカニズムを基礎として、気温と降水量を指標とする、ケッペンによる世界の気候区分の方法を理解する。また、ケッペンの気候区分において、世界の気候区分の地域的分布の状況とそのような分布が形成されるメカニズムを理解する。</p> <p>予習: 教科書46-47ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。(約2.0h)</p>		
9. 気候変動と自然災害		
<p>気候はわが国では春夏秋冬の四季の変化として現れ、経年的に一定のリズムを持っている。そのような中において、ヒートアイランド現象など局所的な現象が発生し、社会生活に大きな影響を与えている。また平均気温が大きく変動する年が発生するなど、これまで人類が経験してきた規則性が逸脱する現象が見られる。地震や火山災害を含めて、これらがどのようなメカニズムで発生しているのか、またどのような場所で問題が大きくなるのかについて考えていく。</p> <p>予習: 教科書66-75ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。(約2.0h)</p>		
10. 世界の環境問題		
<p>今や地球温暖化は現代世界が直面する最大の課題といってもよいほどである。地球温暖化は、人類の影響を受けない地球自体の変化の結果とする主張もあるが、人類の活動、特に産業革命以降の近代化の結果であるとされる。なぜ、このような気候変動が発生しているのか、またそれが世界各地でどのような影響を及ぼしているのかを考えていく。森林破壊や砂漠化、大気汚染など、人類の経済活動などの影響の結果として現れている現象についても理解する。</p> <p>予習: 教科書76-85ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。(約2.0h)</p>		
11. 農業の発達と地域区分		
<p>第一次産業は、自然の資源に直接働きかけることで、食糧や木材などの資源を得る産業である。その中でも農業は食糧資源を生産するという点で不可欠な存在であるとともに、地域の文化を形作る基礎となってきた。世界的に見れば、気候や地形などの自然環境や地域に生じた歴史などによって、その在り方には地域的差が大きいのである。機械等に頼らず、地域の自然条件に強く影響される伝統的な農耕から、資本を投下することで自然条件の制約を小さくする近代的農業まで多様であることを理解する。</p> <p>予習: 教科書85-95ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。(約2.0h)</p>		
12. 農業と国際化		
<p>自動車生産やIT産業などと比べて、農業がビジネスの対象として国際的にダイナミックに変動していることは意外と知られていない。このような農業におけるグローバル化がなぜ進んでいるのかを、資本とイノベーションの二つの観点を中心に見ていく。日頃あたりまえのようにスーパーマーケットに見かける農産物が、このようなグローバル化の中で我々の生活にもたらされていることを知ることは、近い将来の日本の食糧安全保障を考えるうえでも重要なことである。</p> <p>予習: 教科書96-101ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。(約2.0h)</p>		
13. 日本の農業		
<p>人口減少が進む日本において、近い将来の農業をどのように維持・発展させるかは極めて重要な課題である。農業は地域の持つ自然環境に強く制約されるため、同じ日本の中でも、地域によって農業の在り方は大きく異なるとともに、抱える課題も多様である。様々な課題の解決を目指す国家的な政策による成果が見られる場合もあれば、そのような努力にも関わらず解決が困難な課題もある。そのような中で、多くの地域で特色ある農業を模索する動きが見られる。</p> <p>予習: 教科書121-123ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。(約2.0h)</p>		
14. 日本の林業・水産業		
<p>国土の大半は森林に覆われ、さらに四方が海に取り囲まれている日本において、林業と水産業は農業以上に重要な産業といえるのかもしれないが、それらの現状は農業以上に厳しいと言わざるをえない。林業・水産業の経年的、地域的な状況を概観することで、どのような課題がなぜ存在するのかを理解する。わが国の国家的な林業・水産業政策の変遷とも絡めながら、両産業の将来を展望したい。</p> <p>予習: 教科書124-127ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。(約2.0h)</p>		
15. 世界の食糧問題		
<p>本講義では、地理学とは何か、地理学的な見方・考え方を理解し、自然環境やその制約を強く受ける第一次産業を中心に、その現状や背景を考察してきた。その締め括りとして、食糧資源の量と質、食糧を必要とする人間の数と質のバランスとして、食糧問題を捉え、その地域的差や課題を考える。また、そこには経済的豊かさだけでなく、文化のグローバル化による影響があることを認識し、私たち一人一人の生活の在り方が世界の食糧問題と直結していることを理解する。</p> <p>予習: 教科書128-129ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。(約2.0h)</p> <p>復習: 講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。(約2.0h)</p>		
16. 期末試験		
<p>期末試験</p> <p>予習: 教科書および授業内容をしっかり復習する。</p> <p>復習:</p>		